

よいや～の風について



令和7年4月28日(月) No.4 —校長 東原 宏章—

「自分事」

右上の画像は、先週金曜日、午前中の6年1組教室の板書を撮影したものです。この日、6年生の3つそれぞれの学級では国語の物語文の授業が展開されていました。

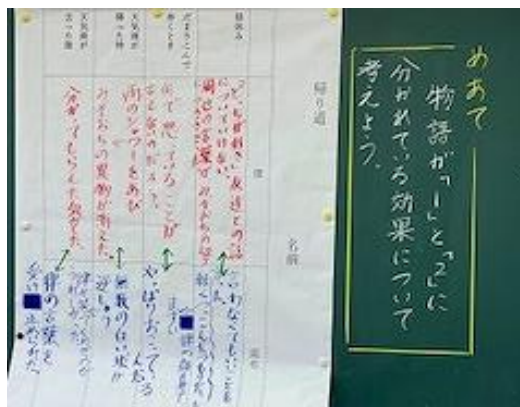
2番目の画像は、同じく1組の電子黒板の画面を撮影したものです。画面には物語文の作者のメッセージ動画が映し出されていました。子ども達は「物語が『1』と『2』に分かれている効果」について話し合い、その後、作者からのメッセージを拝聴し、自分たちが話し合ったことを確認していました。

3番目の画像は、6年2組教室の電子黒板の画面を撮影したものです。「あなたは登場人物二人のうちのどちらのタイプ？」というお題のもと、画面上で自身の立場を表明していました。刻々と変化する級友の立場の傾向を参考にしながら、自身の立場の根拠について考えていました。

4番目の画像は、6年3組教室の電子黒板の画面を撮影したものです。「物語の印象的なところに触れながら、『帰り道』を宣伝するポスターをつくろう」という学習課題のもと、一人一人が自身のタブレットで、黙々とポスター作りに取り組んでいました。

一人で考える子どももいれば、グループで話し合う子ども達もいました。タブレットを使う学級もあれば、ノートに鉛筆で自分考えを書きこむ学級もありました。学習課題も様々、学習のゴールも様々でしたが、3学級の共通点は、「学び」が子ども一人一人にとって「自分事」となっていることでした。

学ぶ必然性を実感しているときの子どもの瞳は、澄んでいて、実に美しいものです。



(プライバシー保護のため画質を落としています。)